

団体名	広島県	所属	教育委員会文化財課	他団体等との連携	—
連絡先	管理係 (082)513-5021				

取組事例名	広島県歴史博物館のお正月開館	取組期間	平成24年度
--------------	----------------	-------------	--------

取組の概要 ～ 歴史博物館の正月開館の実施

広島県立歴史博物館は、瀬戸内海のほぼ中央、広島県福山市の福山城公園内の文化ゾーンに位置し、川底に埋もれた中世の町として全国的に有名な草戸千軒町遺跡を中心に瀬戸内地域の民衆生活と文化に視点を当てた博物館として平成元年11月に開館した。

当館では、草戸千軒町遺跡の調査研究の成果を中心に、瀬戸内地域の「交通・交易」や「民衆生活」に関する資料を収集・展示し、この地域の歴史とそこに暮らした人々の生活や文化に対する理解を深めていただくことを目的として、様々な活動を展開している。

全国的に美術館・博物館の入館者数が減少している中で、今回、冬休み中の子どもたちに当館でお正月の遊びを楽しんでもらったり、帰省や初詣の家族連れ、あるいは長期休暇を利用した旅行客の皆さんに当館のことをより知っていただき、さらに来館者の満足度の向上のため、年始の臨時開館を実施した。

取組の背景 ～ 来館者ニーズに沿った正月開館

全国的にも美術館・博物館の入館者数が減少しており、当館に対しても「博物館は敷居が高い」と聞くことがあり、入館者数の増加を図るため、これまでも様々な取組を行ってきた。

入館者数の増加の取組の一環として、平成23年度に試行的に「年末・年始の臨時開館」を行ったところ、年末約600人、年始約900人の入館者があった。

平成23年度の年末・年始の入館者数を比較すると、年始の来館者が年末に比べて50%以上多く、来館者からも年始の開館を望む声が多かったことから、平成24年度はより来館者のニーズが高い「年始の臨時開館」に特化して取り組むこととした。

取組のねらい ～ 来館機会の創出、来館者満足度の向上

お正月期間中の臨時開館により、冬休み中の子どもたち、普段なかなか当館を訪れることができない帰省された方や初詣の家族連れ及び長期休暇を利用した旅行客の皆さんへ、当館に来ていただくための絶好の機会を提供することができる。

また、来館された方には、正月ならではの遊びを楽しんでもらったり、楽しみながら地域の文化や歴史に親しんでいただき、博物館の役割をより一層理解していただくことを重視した。

また、近年、元旦オープンの博物館は増加しているものの、県立博物館で実施している例は少ないため、「年始の臨時開館」を通じて、住民（来館者）満足度の向上につなげていくことをねらいとした。

取組の具体的内容 ～ ワークショップの開催、他団体との連携企画の実施

平成23年度は12月28日～1月4日（8日間）を臨時開館し、この期間でワークショップを開催していたが、平成24年度はよりニーズの高い年始に特化し、1月1日～1月4日（4日間）を臨時開館し、ワークショップの開催期間を1月6日までにシフトして取り組んだ。

（1）ワークショップの概要

「お正月だよ！こども博物館」と銘うって、こま回しやはねつき、けん玉などの昔懐かしい遊びが楽しめるワークショップを開催した。このワークショップは、昔懐かしい遊びを用意することにより、おじいちゃんやおばあちゃんから孫に至るまで家族の触れ合いが増す機会を創出するとともに、当館において調査研究を続けている福山市芦田川下流の草戸千軒町遺跡から、こまや羽子板が出土しており、中世から続く遊びとして当館をアピールするツールとしての一面も持っている。

（2）年始ならではの演出

冬の展示「備後国府とその時代」に関連したイベントとして、奈良時代の衣装の着用体験や、他団体と連携した「けまり」のデモンストレーション（福山サッカー協会）や雅楽演奏会（ひろしま文化振興財団福山分室）を実施するなど、年始の開館ならではの演出にも取り組んだ。

取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 正月開館に向けた体制の確保、効果的広報の検討等

(1) 正月開館に向けた体制の確保

本来、年末年始は休館日であるため、開館に当たっては、対応する職員の勤務体制の検討や、受付業務委託業者との調整が必要となった。

(2) 効果的広報の検討

より多くの来館者に来ていただくために、効果的な広報を実施することが課題となった。

創意工夫した点 ～ 昨年度実績を踏まえた開館日設定、予算を伴わない開館体制の確保等

(1) 正月開館に向けた体制の確保

勤務体制については、当館職員が計画的に代休を取得するなどの前向きな協力体制を得ることができたほか、当館ボランティア登録者の協力も得られた。経費についても、受付の人員配置について委託業者と調整し、追加の経費等も特に生じることなく実施ができたことは、今後、継続するに当たって重要であり、特筆すべきポイントである。

(2) 効果的広報

今回の取組に当たっては、当館HPへの掲載や県政記者クラブへの資料提供のほか、福山市広報課や福山市政記者クラブに資料提供を行うとともに、福山市立中央図書館でのチラシ配布を実施している。また、今年度は、元旦から開館していることをお知らせする立看板を、草戸稲荷神社、福山護国神社、三蔵稲荷神社、福山城（本丸）、福山駅（北口）等の協力を得て設置し、初詣に来られた方々等にも来館してもらえよう取り組んだ。

取組の成果（効果） ～ 入館者の増加実績と利用者の声

取組の結果、1月1日～1月3日の3か日で昨年の約3倍となる1,400人弱、1月1日～1月6日の「お正月だよ！こども博物館」の開催期間中で2,500人弱の入館者があり、昨年度の約1.6倍の入館者数となった。

利用者からは、「久しぶりに正月らしい遊びをして、とても懐かしかった」、「奈良時代の衣装で写真を撮ることができ、いい記念になった」、「羽根突きは初めての体験で楽しかった」、「正月は行くところも少なく、楽しみにしていた」、「来年も来たい。毎年続けて欲しい」などの様々な世代からの好評の声や、「たこあげもやりたい」、「早めに知っていれば行ったのだが」などの要望や意見もいただいた。

なお、中・四国において元旦オープンの博物館は増加しているものの、県立博物館で実施しているのは現時点では2館のみである（当館と古代出雲歴史博物館のみ）。

期間区分		平成24年度	平成23年度	対前年比
年末	12/28～12/31	—（休館）	605人	▲605人
年始	1/1～1/3	1,371人	675人	+696人 (+104%)
	1/4～1/6	1,081人	272人	+809人 (+297%)
合計		2,452人	1,552人	+900人 (+58%)

今後の展開 ～ 次年度に向けた検討

利用者からの声を活かし、早めの広報実施や新たなプログラムの検討など、利用者のニーズを精査しながら今後の展開に向けて検討を行っている。

こうしたイベントを通じて、歴史博物館をより身近に感じてもらい、家族連れなど様々な年代の方に来館していただけるイベントを企画するとともに、利用者のニーズに合わせた柔軟な対応を続けていきたい。

他団体へのアドバイス ～ 非予算の取組による成果の共有

今回の正月開館については、まだ県内での例も少ないことからマスコミでも取り上げられ、当館のアピールにもつながった。

必ずしも予算をかけなくても、創意工夫のみで成果を上げることができる取組があることを自治体間で共有したい。